

おわりに

わが国の各種産業分野における技術発展の根幹をなす知的基盤の充実整備が国家的事業として要望されている。

電線業界においても電線ケーブル全般について知的基盤整備の必要性が生じた。

(社)電線総合技術センターでは「平成10年度即効的知的基盤整備調査研究」による電線分野の知的基盤整備に関する調査研究を通産省工業技術院標準部から(社)日本アルミニウム協会経由で受託した。

電線業界においては地球環境問題に対する意識の昂揚から従来広く使用されてきた塩ビケーブルに代えてハロゲンを含まない耐燃性材料を使用したエコマテリアル電線(EM電線・ケーブル)の開発が進められている。

本調査研究においては第一段階として「EM電線 光ファイバ」を対象としている。本研究の特色は従来の電線ケーブルに関する設計施工上の基礎データに加え、燃焼特性に関するデータの収集と環境負荷に関して二酸化炭素の発生量をターゲットにしたライフサイクル・アセスメント(LCA)を試みたことにある。

本報告においてはEM電線・光ファイバケーブルに限定したが、今後は電線全般について基盤データを整備し電子サーバーを径由して広く関係者に情報の提供が可能なデータベースを構築することを目標としている。

本調査研究に携わりご協力いただいた諸氏に感謝する次第である。

平成12年3月  
(社)電線総合技術センター  
センター長 関口 昌弘